

## 2010年度 景観・デザイン委員会 第2回親委員会

---

### 議 事 要 旨

日時：2010年10月18日（月） 17:30～19:30

会場：土木学会 E会議室

出席者（敬称略）：

<委員> 天野委員長、屋代委員、上島委員、神田委員、平野委員、関委員

<委員兼幹事> 佐々木幹事長、二井幹事、横山幹事、伊地知幹事、沖田幹事、山口幹事、  
宮下幹事（連絡担当）

<土木学会> 竹田職員、田中職員

#### 議題：

- 1) 委員長挨拶（天野委員長）
- 2) 平成21年度の調査研究委員会活動評価について（報告と対策）
- 3) 平成22年度自己評価（中間評価）について
- 4) 平成23年度事業計画および予算案について
- 5) 土木学会賞各賞の推薦について
- 6) 各小委員会活動状況報告
  - ・研究発表会関連：（上島委員）
  - ・デザイン賞関連：（二井幹事）
  - ・デザイン賞10周年記念事業関連：（二井幹事）
  - ・論文集関連：（平野委員）
- 7) その他・意見交換

#### 資料：

- ・議事次第
- ・資料1 平成21年度の調査研究委員会活動評価
- ・資料2 平成22年度自己評価（中間評価）たたき台
- ・資料3 平成23年度事業計画および予算案 たたき台
- ・資料4 土木学会賞概要
- ・資料5 小委員会活動報告【研究発表会】
- ・資料6 小委員会活動報告【デザイン賞】
- ・資料7 小委員会活動報告【デザイン賞10周年記念事業】
- ・資料8 小委員会活動報告【論文集】

議事：

## 1 委員長挨拶

(天野委員長) 各行事については、過年度より継続した活動を粛々と盛り上げていきたい。

「美しい国づくり政策大綱」が出て以来、景観は内部目的化された。それ自体は望ましいことであるが、結果的には景観が業務として発注されることがなくなり、実態として景観に割く費用が減少している状況にある。この状況の打開に向けて努力をしたい。

## 2 平成 21 年度の調査研究委員会活動評価について（報告と対策）

- ・資料 1 に基づき、学会からの調査研究委員会活動評価について報告した。
- ・国際活動の貢献に対する具体的な成果を求められている。
- ・平成 21 年度の A 評価は、デザイン賞の収益が 2 回分参入されたことによるものであり、今年度は活動収益額を増やすよう努力が必要である。

## 3 平成 22 年度自己評価（中間評価）について

- ・資料 2 に基づき、平成 22 年度自己評価（中間評価）案について説明した。
- ・土木学会歴史的構造物保全技術連合小委員会から「歴史的土木構造物の保全」（鹿島出版会）を発刊したので、a2-1)、a4-1)に記載する。
- ・佐々木幹事長がベトナムや上海の講演でデザイン賞について紹介しているので a2-2)に記載する。
- ・委員会で後援し、平野委員が事務局を務める景観開花。で、中国から応募があった。これに対応するため、英語の要綱を作成した。a2-2)に記載する。
- ・d1-4)について、デザイン賞のプロポーザルでの価値付けを目指すことなどについて委員会で議論していること、また、実際に委員が審査員を務めるプロポーザルで導入したことなどを記載する。
- ・デザイン賞解説の英訳版を作成したので、「情報発信」の項に記載する。
- ・研究発表会のポスターや小冊子のデザインなどについて自主運営している委員会は少なく、財政改善に寄与している。
- ・学会運営の効率化に資する活動、提案についての項で、協賛金に関する依頼について記載する。また、過年度の論文集・講演集について、一般（Google 等）や CiNii で検索できるようにしてほしい旨記載する。
- ・景観・デザイン委員会の Web の中で、過去の論文について掲載することは可能。その場合、小委員会が全て対応するのは困難であるので、親委員会から幹事を提供してほしい。（平野委員）
- ・その他、年度末に向けて、共催事業の実施や海外との連携可能性を各自模索する。

## 4 平成 23 年度事業計画および予算案について

- ・資料 3 に基づき、平成 23 年度事業計画および予算案について説明した。
- ・フォトコンテストは収入を見込まないので、行事とせず、親委員会の調査研究費で実施する方向で検討を進める。
- ・論文集（D1）の審査を会議で行う場合、旅費を支出するためには当面は委員会の会議とする必要がある。そのため、D1 編集委員は来年度幹事として任命しておく。

## 5 土木学会賞各賞の推薦について

- ・資料4に基づき、論文賞・論文奨励賞の推薦について報告、その他の賞について検討した。
- ・功績賞について、樋口忠彦先生に打診し、意向を伺う。
- ・出版文化賞について、中村良夫先生の「都市をつくる風景」を推薦したい。

## 6 各小委員会活動状況報告

### 【研究発表会関連】：上島委員

- ・資料5に基づき報告した。
- ・現時点で15社からの協賛を受けた。最終的には昨年度（22社）と同程度となる予定。
- ・57編の論文投稿があり、講演集は410ページ程度となる予定。
- ・冊子とCDは10月28日の小委員会で内容の最終確認を行い、その後順次配布を開始する予定。
- ・国や自治体の実務者の発表を多く得ることができた。
- ・シンポジウムを予定している安田講堂は500名以上が入れる大きな会場であり、なるべく多数の動員が必要。「安田講堂に入れる」ことだけでも非常に魅力的な機会であるので、各大学の建築の学生にもアナウンスする。各景観行政団体や関東地整へのアナウンスも行う予定。なお、一般の写真撮影は不可である旨の周知が必要である。
- ・次年度開催校について、決定は親委員会で行うが、あらかじめ小委員会より打診する。例年研究発表会の懇親会で次年度開催校を発表しているため、それまでに決定する。

### 【デザイン賞関連】：二井幹事

- ・資料6に基づき報告した。
- ・今年度の協賛金は90万円となったが、今後の減少を見据えた対応が必要である。
- ・協賛金に対する学会管理金の免除について、親委員会より理事宛に正式に要望を行った。
- ・学術交流基金として寄付をいただければ管理費は不要となるが、財団などはあくまで行事に対して「協賛」しており、「寄付」という行為を嫌う傾向にあるため、対応は難しい。
- ・今後公益法人化すれば柔軟な対応が可能になると考えられる（竹田職員）
- ・今後最終選考会を行い、受賞作品が決定する。
- ・授賞式日程を早急に決定すること。

### 【デザイン賞10周年記念事業関連】：二井幹事

- ・資料7に基づき報告した。
- ・デザイン賞受賞作品近傍の小中高等学校及び自治体に対して、個別にフライヤー・募集要項を作成し、郵送した。
- ・デザイン受賞作品の関係者は500名近くおり、その中には部署を異動した方もいるため、事業の発注者である自治体宛に案内を送付することを検討する。
- ・フォトコンテストの受賞作品決定後の授賞式、パンフレット作成などについてアイデアはあるが、費用がかかるため検討が必要。
- ・マスコミの協賛やアドバイザーとしての参加を得られれば、記事になるので宣伝効果は高いのではないかと。
- ・学会行事として検討できる可能性を探りたい。（前例はない）

【論文集関連】：平野委員

- ・資料 8 に基づき報告した。
- ・No.9 掲載に修正が間に合わない論文は D1 への新規投稿を依頼し、過去の審査書類は全て引き継ぐこととした。
- ・No.9 の 2 次審査で再査読と判定された論文はなかった。
- ・来年 1 月から、PDF の直接投稿ではなく、自動組版システムによる投稿に移行する予定。
- ・過去の論文を検索可能とする対策について、学会に正式に依頼したい。

## 7 その他

(関) 土木構造物共通示方書が発行された。これは、全ての構造に関わる基礎的事項、例えば設計・施工の前提や技術者の資格、あるいは契約と責任等に関する一般事項について解説しており、景観・環境という言葉も多く出てくる。大変望ましいことと思うが、景観について最適なものを「選定」といった書き方がされているなど(本来は「創造」すべき)、不本意な部分もある。示方書は適時見直しされていくものであり、今後意見を述べていきたいと思っている。

(天野) 景観技術の資格化について検討したい。土木学会認定技術者に「景観・デザイン」分野を立てることが今後の時代の流れからも一番望ましい。

(平野) 今の認定技術者の分類は、いずれは再編が必要と考えている。そのタイミングにあわせて分野を追加するのが望ましいのではないか。また、景観・デザインは関連するさまざまな分野の 1 要素となっており、そこからなくなることは考えにくいため、審査する側としては負担は増えると考えられる。申し入れをするならば、資格制度については土木学会技術推進機構が担っており、そちらへ打診する必要がある。

(天野) 現時点で全体の再編を申し入れるのは困難であり、社会的な声や国の動向などを常に把握しておくことが必要と考える。

(佐々木) 本日委員会を開催したことを受けて、例年実施している研究発表会会期中の委員会は開催しない方針とする。

以 上